



墨田川梅柳新書



四

13
1300
4



1300
4

墨田川梅柳新書卷之四〇

本清

東都



曲亭主人著

十 天狗石を飛し松稚と救ふ

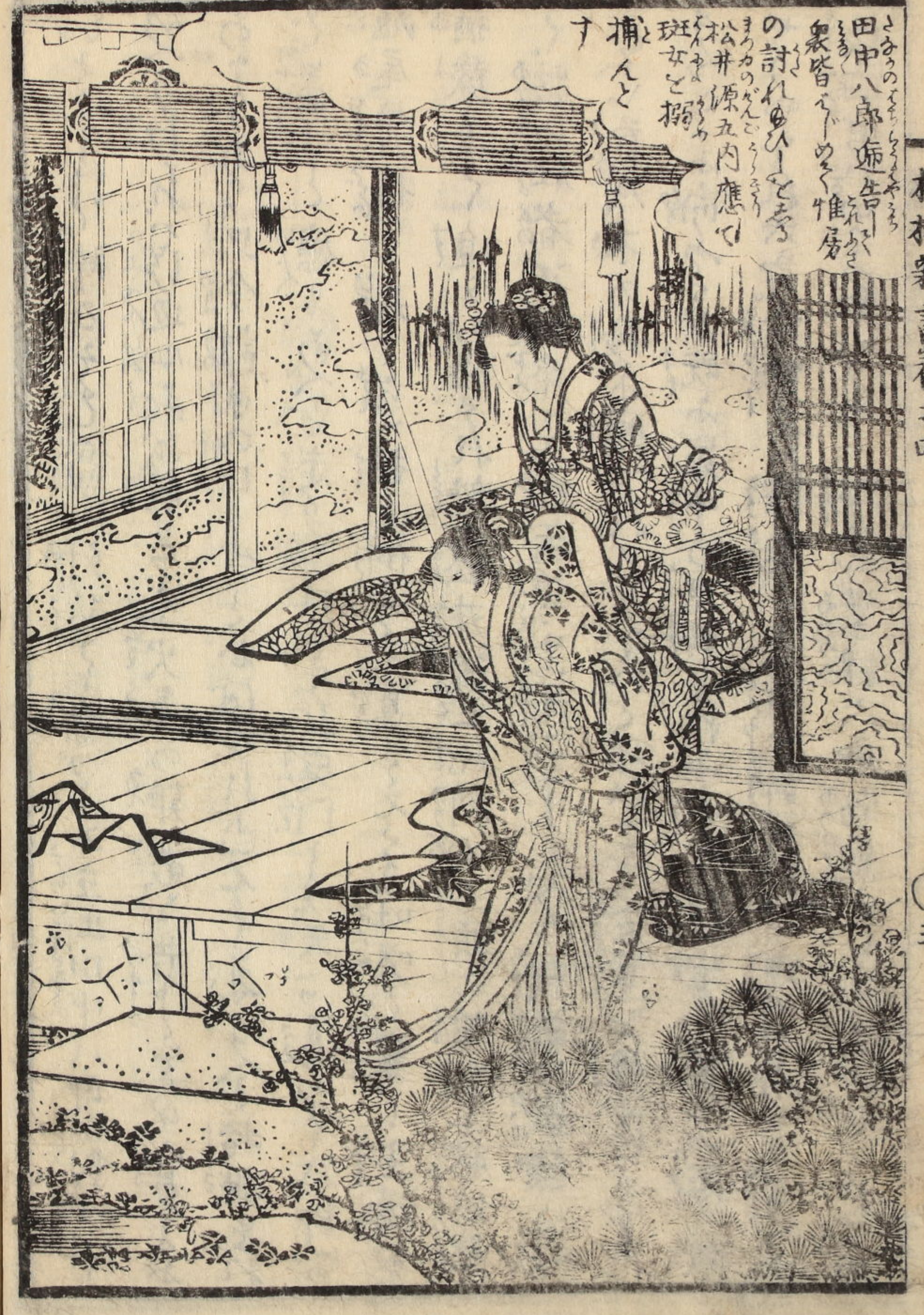
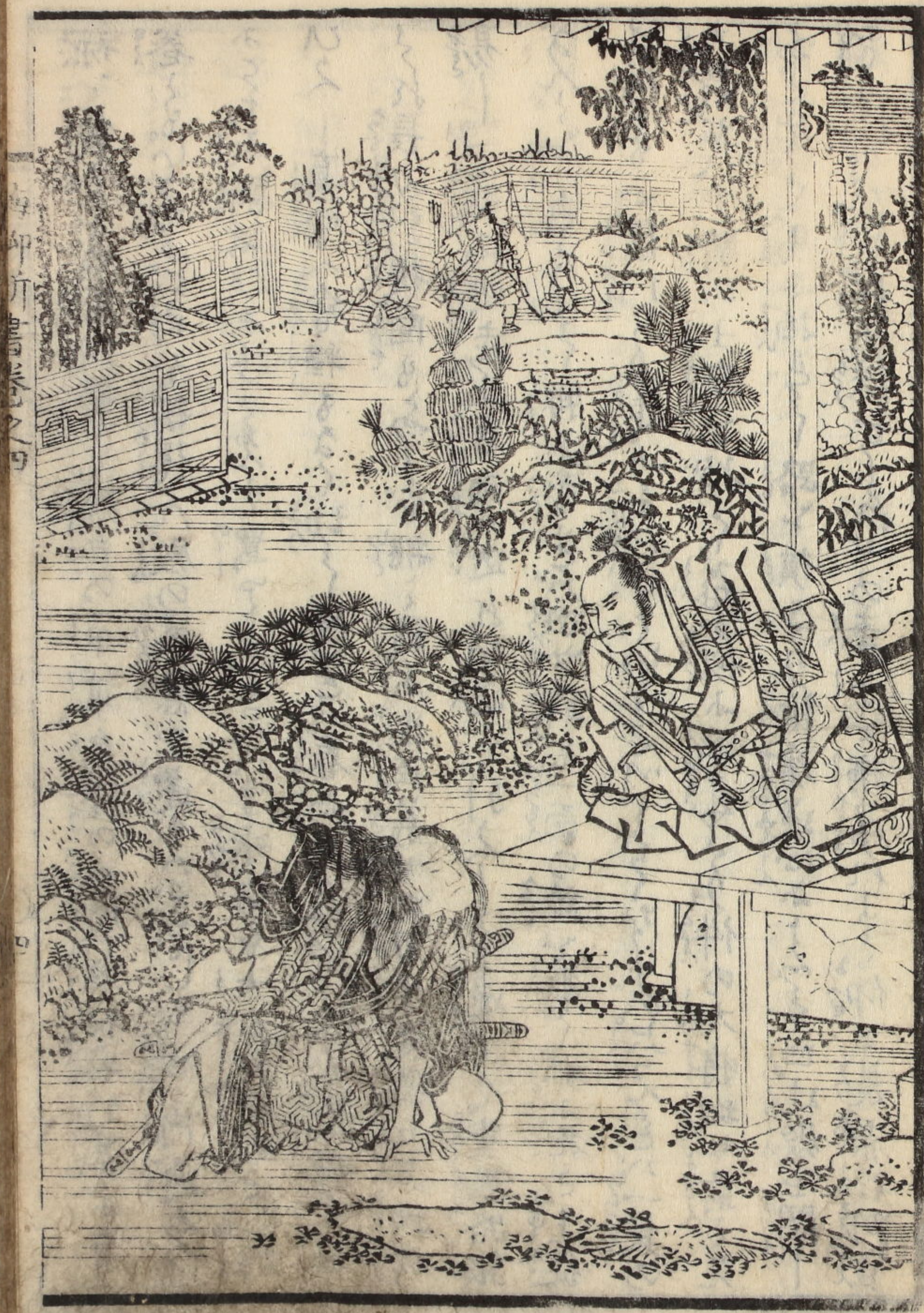
少将惟房討と多ひ一事いしむつえねは。斑女前へ粟津六郎勝久ひも
 春雨の老女狐はつとく。端らう立出。色妙小香濃やうけ庭の紅梅
 狐いとおりあうまめま折しも。田中八郎とくひ壯士袍の袖を引断離
 らし。鳥帽子も打おとされ。大まふありたれ。庭門より走り入り。椽はら
 小衝と多かり。喘だくまうんや。そも殿め。恩賜の御劔を懐小
 一、一院の御所へまうひ。潜小電鞠殿を刺んと。多ひまね小機密
 忽地小漏りけん。赤石平九郎判官盛景豫く力士狐惟幕の蔭ふかくし
 置。矢庭に討とりひひぬ。あのみとやぐえ。秘小。法供ありりねのども

大小敬馬兒とせんかくせんと周章と。時小使の聴れ官人四方よりとて
 圍之。惟房が家隸と脱とまると吸つて。既二搦捕らんと聞く。それ程小
 志あれ徒と。奮撃手突戦し主とも小屍以曙し。下郎ハ母もあり
 又おめく生拘らるもあり。それがくろの身をちかせたせよせんため
 かりしと脱とまわりと生もさうばれ小衆皆といふとお落と執掌
 斑女前ハ痞と入發とく摸地と倒る小女。春雨遠く扶起し。且諫且勵して
 さまぐ小勲と進ませり。そのとれ栗津六郎膝とす。近曾一院後鳥羽
 龜鞠殿よ迷されかへはし。非道の御行ひと多くれを殿のまぐ
 苦諫とあふひハ粗人のあつとるあり。志く小殿ハ。嚮小院宣ふよん
 叔姓の義我成締む。龜鞠殿と四辻の御所小進らせまふ。元来その志
 小あふと加之彼婦人の父赤石平九郎判官ハ。斑女御前の舎兄。行稚丸

なりこの人むし月林寺と逐電し。還俗し仁科平九郎と名替りぬ殿
 あもさやその人との知召せも明白小つたハ父の志と破る小以り。云
 ぞとれ君と欺か如し。遊莫盛景先非と悔く舊の沙弥とあふ。び
 憎むれ小あふと。あふ仔細あれハ彼が行稚つれを斑女もあふと。うら
 ごと直いと僕はく殿の胸膈を察し。かくれ悪縁小繫れし。
 彼父子が世乱れんをえつ居るハ不忠なり。所詮龜鞠殿を殺して福
 の根と断むと多し。待多しん小孤忠徒りとなりて。却朝敵逆臣
 れ汚名ととめ多しんハ。杖をくも。歯を切て拳と握かめ。
 透恨小堪とええと。斑女前も春雨も。くみり少將の仇ハ兄も
 古主も。あふと。身と恨くまの歎ハせ。さあうりみし
 浅すして。夢とも更ふりたす。斑女前ハ。恩小背れあふたが。

悪人の妹とも。妻とくわみ多ひめれた。志を成さる。江面目をたのむ。今へとくまらう。護身刀を引抜く。自害せんとも。六郎春兩。左右より押とめ。その物やねひまふ。今朝も敷山へ松稚君と登り。あつへ殿のおひまふ所あれは。阿闍梨へあせせし。書の中。後のゆまとも。書遺し。おほし。恩。我の重た。願。松稚梅稚の先途。瓜もえとけ。亡君の汚名と雪ん。おほし。やと。はく。凍。く。刀とりのせ。死。あも。と。い。う。ら。泣。ま。ひ。り。れ。浩。如。小。金。鼓。遠。不。響。外。面。置。塵。と。恩。劇。栗。津。六。郎。耳。を。側。討。の。軍。兵。と。や。近。つ。く。お。ほ。え。ま。り。一。天。の。君。不。對。て。ま。り。て。弓。と。引。べ。た。か。う。の。あ。ら。ね。ど。志。を。禍。を。避。ん。が。為。り。ん。それ。が。殿。い。と。と。一。春。雨。の。斑。女。伊。前。の。世。供。と。近。江。の。く。く。落。れ。よ。と。

いとがけは。袴のそぞ高く引折る。椽づ。小立出。田中八郎。小對へく。つりけれ。浮辺必死。瓜脱とく。火急の難。我を告り。賞とく。あやりあり。只今討手のむらう。おほゆれ。ふ。ま。ま。と。指。揮。され。む。兼。と。應。も。あ。と。走。り。出。ん。と。せ。れ。庭。門。より。矢。一。ツ。あ。つ。く。八。郎。の。尾。骨。推。く。兵。と。立。ば。撞。と。倒。と。く。息。と。え。り。吐。嗟。と。驚。く。主。後。の。猶豫。と。進。む。の。ゆ。れ。処。小。松。井。源。五。純。則。十。王。頭。の。膳。當。小。膝。鎧。懸。く。夥。の。壯。者。瓜。引。率。一。弓。矢。携。生。先。ふ。す。と。入。り。朝。敵。の。家。隸。と。呼。ぶ。と。く。首。瓜。木。の。杪。小。曝。す。れ。ん。と。ま。り。と。さ。ひ。え。し。官。軍。を。俟。じ。と。これ。ゆ。ぐ。ら。小。向。あ。り。既。ふ。家。中。の。老。弱。と。れ。ふ。ま。ま。と。け。の。省。し。背。く。の。志。と。殺。せ。り。や。と。れ。六。郎。命。惜。く。の。降。参。し。と。斑。女。前。の。く。と。く。遍。せ。と。ぶ。り。と。迷。り。後。悔。せん。と。く。や。い。と。と。と。栗。津。六。郎。勃。然。と。し。と。大。小。怒。り。と。その。



とあるのてしるは
田中八郎衛門告
衆皆へつゝ唯房
の討れぬとて
松井源五内應
斑女と搦
捕んとす

木村宗書

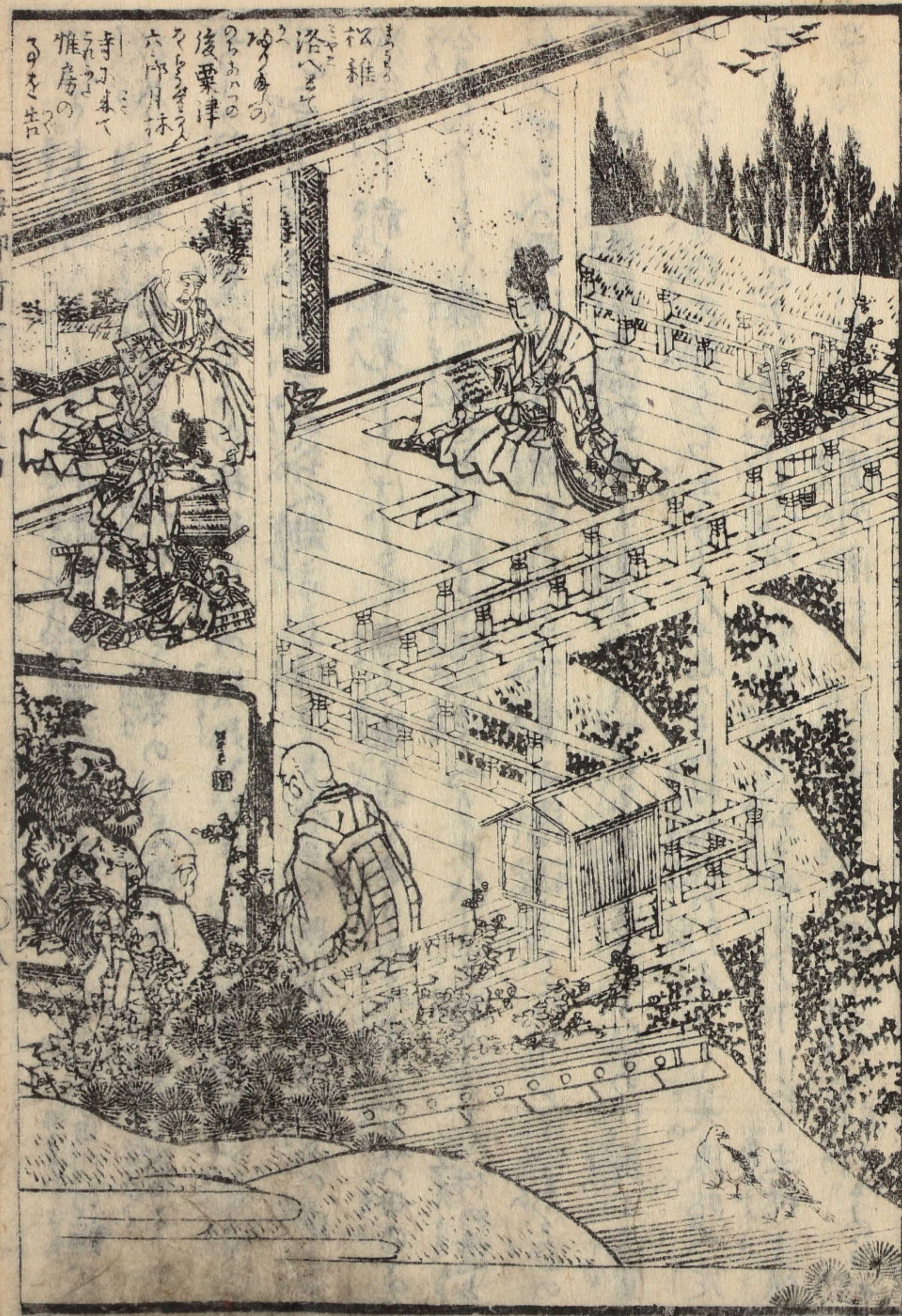
三

祿を食むるの家以弊と。庸戸の嵐輩烏合の兇賊。後宿麻竹葺ふり
 巻とも。いづれ六郎を搦得ん。殿の本意を遂るべからじも。汝内通あつ
 ことを。天罰をひあつと罵ア。二尺八寸氷るも。太刀以拔め。群
 ひへ。真中へ。會釋も。く切く。惣と。春雨も。ひびく。長押。掛
 くれ。長刀引提面も。あつと。挑。戦。忠臣義女の刀尖。源五忽地。辟
 易。一崩。逃走。春雨。逃れを追。引へ。遠く。重器路銀
 あん。と。一。腰。著。斑女前も。一面の鏡を取。袖。抱。主従
 の。後。門。より。走。行。こ。い。ま。ど。い。ど。か。か。ん。ん。一。員。の
 大将。七。十。騎。の。士。卒。を。招。ひ。飛。が。似。小。馳。ま。り。件。の。大。將。斑。女。前。と。見
 る。と。中。へ。馬。小。拍。と。路。を。横。り。惟。房。逆。心。ふ。よ。り。四。辻。殿。を。開。し
 ち。り。し。立。地。小。誅。せ。ん。れ。その。妻。子。と。搦。ま。れ。よ。と。仰。を。美。赤。石。判。官

發向せり。正。是。喪。家。の。拘。網。裏。の。魚。逃。も。し。つ。比。す。く。逃。ま。る。と。く
 縛。と。受。よ。と。と。斑。女。前。も。春。雨。も。終。く。あ。ら。わ。り。行。推。九
 か。と。あ。つ。も。い。と。怒。ひ。や。す。一。言。の。回。答。不。及。也。あ。つ。一。小。心。の。穴。究。め
 立。向。へ。と。れ。処。小。栗。津。六。郎。勝。父。葛。直。あ。走。り。ま。つ。こ。ら。を。れ。か。ふ。ら。ち
 伊。せ。白。川。の。山。越。し。く。東。の。か。こ。落。ま。と。い。ひ。も。と。つ。ご。太。刀。閃。し。大。勢
 の。真。中。へ。巴。の。字。十。文字。懸。散。し。西。風。打。く。へ。東。を。靡。け。蒐。抜。し。切。立。れ
 その。隙。小。春。雨。へ。斑。女。前。を。扶。掖。し。山路。を。咄。ま。り。落。延。ま。り。盛。景。これ。と。ん。と
 大。小。焦。燥。あ。と。討。め。よ。と。叫。ぶ。も。栗。津。六。郎。只。一。人。の。太。刀。風。小。夥。の。軍。兵。を
 靡。く。小。松。生。れ。丘。の上。小。い。り。と。逃。登。れ。盛。景。も。力。及。び。と。終。小。彼。処
 退。き。ぬ。六。郎。九。より。深。入。せ。て。松。稚。梅。稚。の。み。い。と。公。り。と。ま。ん。や。雲。母。越
 と。投。り。引。く。盛。景。ハ。彼。を。討。り。し。て。後。難。量。が。じ。と。い。え。馬。の。頭。を

立ちあがりて。あざむくと呼び。松井源五純則同志の朋輩を領し。出陣り
 惟房が二男梅稚へ。去年より敷山月林寺小あり。又嫡子松稚へ。今朝父の使
 しく。彼山小到り。こゝ惟房豫る後のゆゑ。おひこり。子どもと遠く落
 んとの計較なれどし。それがふ士卒をころし。授け。東の果すも
 追懸く。擧進らせんこといと易うなん。それがし。向小斑女前栗津六郎等。以
 生拘さうりし。手勢多う。秘の公も。走らせり。曲る源五。首小
 任せ。人窮。成盛景。つる。莞尔と。うら。是。今度の働。感
 小堪。人窮。却。猛。獸窮。人。小敵。と
 小。人窮。却。猛。獸窮。人。小敵。と
 且。預。松稚梅稚。大君の御威徳。伏。敵。と
 首級と。登。亦。諸國へ。属。と

者奴ホガ。一。馬。驅。つ。人。努。懈。と。説。り。自。他。平。等。即。身。成。仏
 の。短。刀。と。四。五。十。人。の。士。卒。以。て。授。け。源。五。欣。然。と。掌。短。刀
 以。て。腰。小。腹。近。江。路。と。追。ひ。盛。景。へ。惟。房。の。館。を。焼。拂。り。せ。ら。ぶ。の
 為。体。を。し。ん。と。四。辻。の。御。所。へ。し。り。り。た。れ。の。日。松。稚。丸。へ。父。の。使。り。敷。山
 月。林。寺。小。到。り。折。し。仲。圓。阿。闍。梨。へ。西。谷。へ。い。ま。歸。り。ま。い
 こと。梅。稚。丸。の。子。舎。小。入。り。互。不。恙。多。れ。と。言。ひ。け。え。
 四。表。八。表。の。物。が。し。り。し。り。行。ま。ふ。申。の。刻。過。く。阿。闍。梨。ゆ。り。あ
 ひ。た。れ。松。稚。へ。梅。稚。小。引。と。阿。闍。梨。不。謁。父。の。言。語。と。述。書。簡。と。り。ま。い
 進。ら。せ。ま。ふ。阿。闍。梨。と。ま。り。文。箱。と。封。皮。押。断。と。え。ま。い。ひ。ま
 け。の。遺。書。あ。り。盛。景。電。鞠。の。ゆ。又。ま。ら。ち。ひ。定。ま。れ。一。件。の。ゆ。書。は
 一。本。意。を。遂。げ。ま。い。黒。白。と。一。族。と。誅。せ。ら。れ



松方家

りれ。主成討人ら。は。事赤石判官盛景討まら。馳向ひ白川の館に
 放火。亦斑女前へ春雨不扶掖。東の如く落まら。本末と審る。ヤ
 せ。阿闍梨は。梅稚の父の横死。六郎が精忠と賞嘆し
 きて宣ふ。阿闍梨西谷へ赴き。帰る。その晩。父の遺書
 今少。前ふ披見。は。事の難義とありね。又家兄君の母の
 公。藤三小七郎と。洛へ走り。ひいと。件の遺書
 を。栗津の如く讀も。不覺小落涙。それが。へ。の
 早。松稚君と洛へ。今。松稚九の引。美濃路へ走
 の。討。大勢。松稚九の引。美濃路へ走
 了。猶。松稚九の引。美濃路へ走
 とも。草鞋。仲圓阿闍梨。別。深。引折。の。日

黄昏。山。松稚の。下。郎。縁由。驚。怖。地
 地。栗津六郎。彼。勲。立。梅稚を。湖。北。走。小
 小。志。賀。日。暮。一。最。茂
 林。中。松。井。源。五。純。則。野。の。兵。と。引。ゆ。さ。路。と。遠。了。苗。め。松。稚
 丸。推。房。心。小。誅。伏。事。非。及。り。幸。小。赤。石。判。官。の。庇。を。朝。敵。餘。類。の。汚。名。を。脱。し。迎。ま。る。倉。あ。へ
 身。古。主。の。好。首。と。繼。く。ま。せ。ん。そ。り。ま。と。松。稚
 奮。然。と。大。小。怒。り。不。忠。の。匹。夫。主。と。賣。く。榮。利。を。そ。う。ん。も。天。い。ぞ
 怒。ば。い。ち。と。罵。り。太。刀。抜。く。懸。り。小。七。郎。藤。三。も

主は後とてしつり流も小鶴翼魚鱗小引とる多勢が中へ割く入の嘔吐で
 戦ふなり。源五つ大勢無比と九牛が一毛なる主従三人志へ勇しといふも
 輒く切腹んやうもあふど。とくしつ松雅の一方を切ひつた。つと走り抜てえく
 了身の藤之小七郎の討れり。さあ死ん父の志を空くこと必
 づし。湖水のくく走り多めを敵透間もろく追蒐く。既小危く入えまふ
 といふ比敷が辻小道祖神あり。その日二月某日祭禮の宵宮なりとく。赤塚下
 坂本の里人おひひくの将衣束し。日の暮くを俟あへし。只今神輿を假
 屋へ擡出さんとそれ折しもあは松雅を逃さる。声くお罵りく。影の兵矢が
 射くくく。比敷山お後し不幸崎の雨吹拂くお異ふ。福里人お敬馬さ。怕
 と神輿を捨く逃りせり。松雅ハ左右の手小二振の太刀と抜りら。射れ
 矢を切らひく。透とえく腹を切らんとおひまふ。事急し。便とて

吐嗟只今討どりあさうええ。これ処小神木とおほく。紅頭おいくとせ
 孫くこれ枚の揃より。とらくと礫を打く。おる。忽地物あり
 く。飛下るとえ。ハ面ハ夜又のどく。あく鼻高く。全體金色お光り
 了。これお長と銚引提討の兵と四角八面は難く。その勢
 繁然とく。更お當く。源五のいもく。兵士も大お怖と
 疑ふ。づもあ。ぬ比良が嶽の天狗あり。この枚ハ彼君のをり
 態をせえり。天狗礫お打敵死す。可惜命う。かふと罵あひ。これ
 先不逃んとそれお足元暗く。株小蹴た。これとく刃小刃。破手
 或ハ途とら。湖小水お落る。のもあり。え。かりけ。形勢あり
 ころ。細小討の兵遠く逃去く。松雅ハ不思議お必死と脱と。彼妖怪
 小とて。對ひく。その御牙の鬼。神。何の因縁あり。松雅を救ひ。



毎朝一



木本親吉

志し宣へ。彼りの懸く。けりらうきつ。假面と云遣り捨る。これハ
 妖怪小あふ。年紀四十あり。身丈高く。筋骨いと逞き男。あれ
 ども。いづく不審ともふ。この男は近づくわくやとや。それハ赤塚の
 商人あり。軍兵と叫ぶ。のなり。この十六年のむ。妹鳩崎とて
 の。御館小給事いせ。この傷華の壯俊。山田三郎と密通。この發覺
 て男女の海も小殺。これづし。と。田公斑。御前憐れ。おぼ。密。一色の
 金と賜。二人の海も小落。うもひね。よ。鳩崎ハ山田三郎。も
 赤塚。小。それハ又その不。責。著。彼。今
 東の。鳩崎ハ産。子。年来。風。使。え
 くり。が。民間。人。と。も。弱。と。義。仗。へ。賊。を。殺。ん。ド。
 恩。報。と。死。と。も。辭。せ。と。折。あ。ハ。吉。田。の。家。ハ。一。臂。の。力。で。

妹ハ再生の恩。小答。を。い。ん。と。い。ま。づ。館。へ。出。入。す。又。小。あ。は。海。の。公。も。ま
 も。夥。の。年月。を。過。し。ゆ。い。と。あ。う。に。今。宵。縁。故。と。あ。う。と。忽。地。松。推。丸
 と。逃。と。ま。と。呼。り。夥。の。兵。頻。小。矢。を。射。け。君。危。く。え。ま。か。の。と。こ
 それ。が。あ。ま。う。松。推。丸。と。い。ま。づ。恩。高。ハ。吉。田。家。の。推。君。なり。は。は
 と。救。ひ。進。ま。せ。んと。す。れ。ハ。里。人。ホ。恐。怖。と。逃。走。す。と。れ。と。相。語。不。及。で。
 寺。あ。る。當。社。神。夏。の。宵。宮。も。神。輿。出。し。と。ま。る。ふ。それ。が。御
 導。の。役。小。當。り。猿。田。彦。小。打。扮。し。加。之。の。杖。を。ひ。く。と。り。天。狗。の。懸
 処。と。い。ひ。け。け。彼。是。早。速。小。の。ひ。と。せ。く。潛。小。件。の。樹。小。攀。登。り。
 天。狗。と。え。せ。く。這。奴。小。膽。を。冷。し。終。小。危。く。救。め。く。と。う。も。羊。車
 の。志。を。い。せ。り。家。の。妻。も。あり。女。思。も。あり。と。ま。公。は。信。く。た。り。の。あ。り
 誘。ま。入。進。ら。せ。ん。と。い。ハ。松。推。丸。情。由。と。せ。く。感。激。斜。ま。る。鳩。崎。ハ。

海神行書卷之四

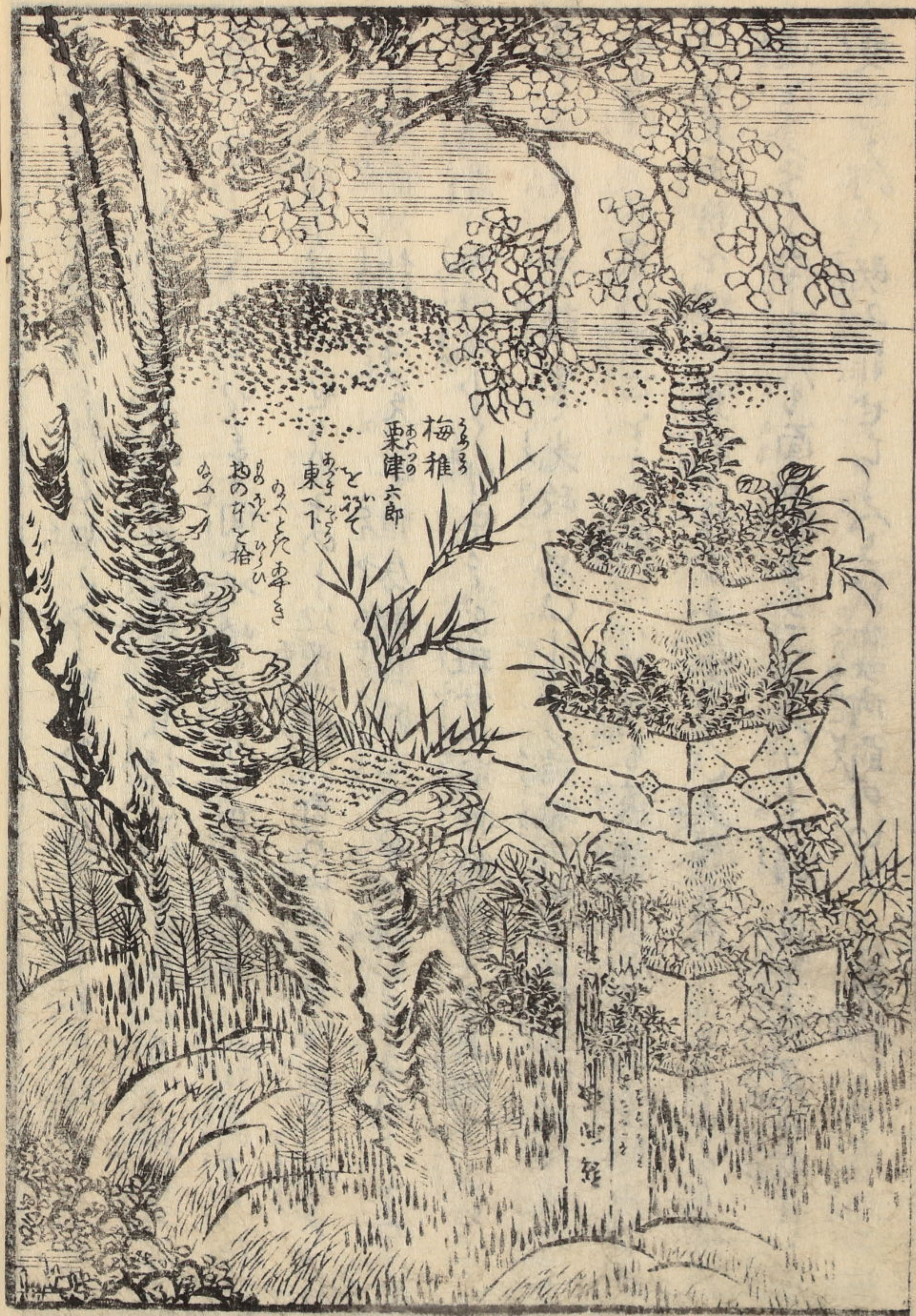
母公兒君小いよとめひちかふせんとも。或ハ急小走り。或ハ緩小走り。さかしく
 小逗留志多ひし後小生の上旬小至る。中ややく武藏國ヤミく母多ひり。
 ある日の曠昏小戸田河とりの大河と打り。曠野のよと急なれ古墳の辺
 と過り。その境の藎小一つの根あり。人の如く坐し。物の本を讀居り。
 栗津六郎これと云く。この怪有なれ奴ら。とや走り。路の疲勞感
 めさるせんとのいもあど。石と云拾ひ。とらとくと打られ。根をいさく
 おどろきと跡を逃るく逃亡跡少。彼母子のこ残り。六郎これを取
 る。小野人の名と字し。未とりの点と引くもあど。いよ怪とやぐ
 梅稚小えせまわ。とれ小梅稚も又そのと海を曉る。後のかり種
 ともなる。さたりのこと。これを懐小挟め。この夜ハ平尾の御稍盡た
 家小宿りを徵る。主人の男とや栗津六郎と云く。この勝又小あ

ぞや。よもも多ひし。裡小くせまといひつ。はし物と燈少。六郎其
 人と云く。山田と郎光政あれ。且驚。直往。門方小立在る。梅稚九も
 ちか。のよと云えす。いと。同小嶋崎も走り。中。主後二人。奥す。たれ
 け。小請。はかりせり。そのと栗津六郎ハ山田と郎と近く招て。ら
 られ。對面。次。び。せ。て。惟房朝臣滅亡の。瓜物。又。俱。さ。か。せ
 とれ。梅稚君ハ。梅稚九少。ゆ。と。斑女ハ。前。松。稚。九。の。真。別。下。向。の。こ。と
 る。首尾。を。家。語。せ。光政ハ。ひ。より。梅稚。の。お。ま。び。と。れ。と。ん。と。あ。ら
 ぬ。も。深。く。君。家。の。滅。亡。を。う。ち。歎。け。ハ。嶋。崎。も。蒸。襖。の。こ。ま。と。や。縁。由。を。れ
 け。女。兒。玉。柳。を。吸。く。光政ハ。後。方。小。居。る。と。び。夫。婦。の。後。も。小。中。と。や。承。れ
 過。を。今。も。小。や。ん。も。面。せ。る。と。れ。ハ。小。弱。り。し。と。れ。又。小。耽。り。越
 度。小。よ。の。既。小。罪。せ。ら。ん。と。斑。女。御。前。の。い。と。み。は。母。春。雨。の。誠



梅柳新書卷之四

十五



梅柳新書卷之四

十六

梅うめ 柳やなぎ
 栗津あづき 六郎むさし
 東あづき 下むさし
 のんとたあき
 おのやと拾
 のん

十人なり。野火焚く園中一なるが。彼主位とんく私語あひ忽地くくくと
 走り出く。遽に田舎女前の笠の内を會釈もあつたに記す。この艶麗なる
 女子なる。うこそ少し長きるれ。賣るはよに價ひくさ。誘ふとくた右
 より。よりあつたのまをとりんとそれと春兩押隔。奇せもつりど。る狼藉
 あり。女子とさし悔あり。後悔せよといさすけの野卧とも驟然とら笑ひ
 この老女頭の冬ぐれの尾花を紬腰へ紫山子の弓矢張と。口の猛くもほふ
 たり。者奴願引裂く。息の根とめよと罵く。しどくと走り懸く。春兩
 刀矢閃々と抜く。前ふすこし荒男の諸膝薙く切くせせ。このさしの
 外も剛と奴も。それ打ちせんともよめく。とま西へ物もさび。右に柱
 たふ支命と限りふ戦ひり。梟雄や敵の野卧おも。輒く捷矢取
 ぐくく。二人に引られ。手毎に野火の焚くを投ぐれば。その火芝生お

お散りて。夜風のすふく。幾と燃え。頻小此方小吹つくれ。春兩今心
 防難斑女前も裳と焼く。足の踏をれ処もあ。只顧軟骨もい
 ぐ。信と公けくあり。邊く懐より松梅の鏡灰より出。野火小向
 く擲する時。あれ岩間の石瀟決然と。瀆り。かきその火灰
 滅く。夫鏡へことと月小象。月これ大陰の替あり。今明鏡
 の徳より。暫時小猛火と防ぐこと。實不奇ことといひつぎし。春兩と
 これ小力と得。矢庭小二人瓜切く。ささといふも。その身も又夥探手
 と肩ひ。勢場く轉振。二人の野卧。その刃と奪と。胸さ刺んと
 さらけ処小。とハあつた松の樹蔭より。打出と。裏剣小。彼賊尾
 骨小。仰。悪徒おそれ。舌と掉ひ。駭然と
 去くす。時一人の武士。刀と引提。樹間より。跳り出。盜賊

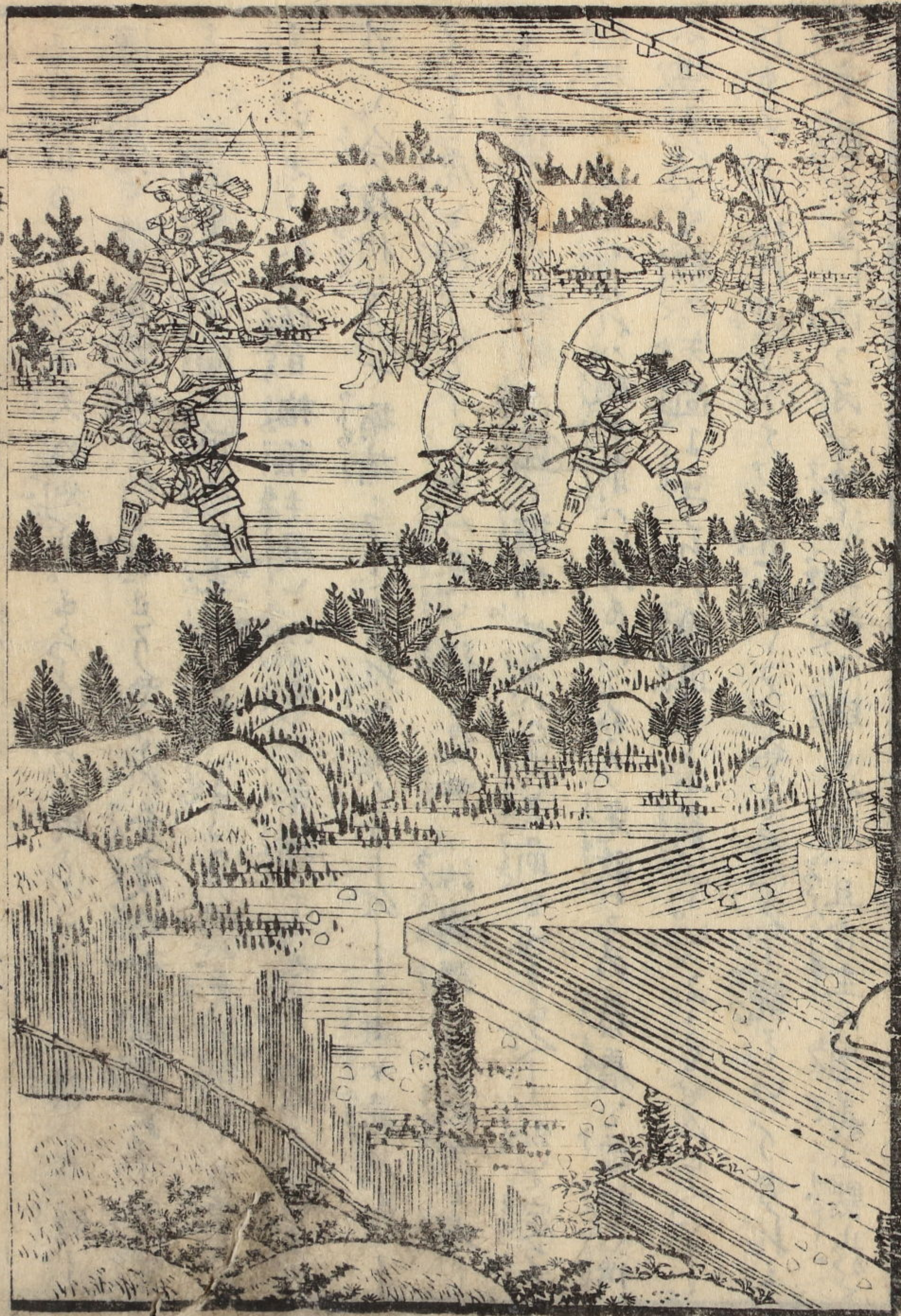


梅
下
竹
葉
集
卷
之
四



春
雨
野
伏
と
血
戦
と
死
明
鏡
野
火
を
消
し
て
斑
女
残
り
と
光
改
も
と
殺
老
母
と
勤
王

梅
下
竹
葉
集
卷
之
四



海印新書卷之四

十一



梅雅九八栗津六郎
 をねり山田之郎の家
 小宮居
 玉杵あり官待
 又ある夜
 山田之郎ハ
 あそぶ
 班女と
 信ひる
 浴衣
 源五
 小寺
 まん

赤木新書卷之四

九

怖^{おそ}くありと猪^{いの}く。くろの中^{うち}竊^{ひそ}ふ故^{ゆゑ}ひ。公安^{やす}れ此^{こゝ}真^ま夜^よ中^{ちゆう}ハ過^すまじ。
 號^{あや}笛^{ふえ}と吹^ふく所^{ところ}はふ。ゆありぬとありまて應^{こた}へ。賤^{せんと}の捕^{とら}人^{ひと}不^あ送^やれて斑^{いん}女^{にょ}。
 此^{こゝ}前^{まへ}と伴^{とも}ひ。やわを。平^{ひら}尾^おの御^ごへ立^たつれ。嗚^な呼^こ前^{まへ}門^{かど}虎^{とら}と防^まげ。後^{のち}門^{かど}更^{さら}。
 狼^{おほ}と進^{すす}む。山^{やま}田^た粟^{あは}津^つの兩^{ふた}忠^{ちゆう}臣^{しん}。縦^{たて}焚^{くわ}會^{かい}が勇^{ゆう}。陳^{ちん}平^{へい}が智^ちありとも。輒^さく斑^{いん}女^{にょ}。
 梅^{うめ}稚^この脱^{だつ}と。まふ。まふ。ハ。え。え。ざ。り。ま。ん。や。

墨田川梅柳新書卷之四 畢



